

平成 24 年 10 月 24 日 気まずいときのクラッタリング

人は喉の奥にある「声帯」で声を出しますが、鳥は「鳴管」という、気管のさらに奥にある器官で声を出します。長い気管を共鳴管として音を出すので、鳥は小さい体でも大きな声を出せるのです。

しかしコウノトリは大人になると、この鳴管が退化するために、声が出なくなり、その代わりに、上下のクチバシをカスタネットのように叩き合わせて音を出します。これを「クラッタリング」といいます。コウノトリは鳴けない代わりにクラッタリングでコミュニケーションをとっています。ふっくん・さっちゃんも、飼育員が外でワイワイ作業をしていると、「うるさいよ！何やってんの！」と言うように 2 羽でクラッタリングしてることがあります。

クラッタリングには色々な意味があり、「愛してるよ〜」「私もよ〜」と愛情表現に使うこともあれば、「侵入者め！ここから出て行け！」と威嚇に使うこともあり、その侵入者を追い出して「やったぞー」

「勝ったぞー」と勝鬨^{とどろ}を上げることもあります。ドタバタと走り回って「テンション上がってきたー！」というときにやることもあります。

しかし、どうやら「気まずい」時にもクラッタリングするのでは、ということを見ました。

ふっくんはケージ中央で、さっちゃんは池でそれぞれくつろいでいたお昼前、おもむろにふっくんがケージフェンス沿いに何か見つけ、走りよってつきました。さっちゃんも「えっなになに？なにがあったの？」と駆け寄りました。



「何かおもしろいことがあったらいいわ！」

「ここに何か・・・あれ？」

でも特に何もなかったようで、わざわざ走ってきたさっちゃんと、あたかも何かあるように振舞ってしまったふっくんとの間に、微妙な気まずい空気が・・・そんな空気は、クラッタリングでごまかします！



「何も無かったじゃない！」

「知らないよ！」

「え〜い！」

